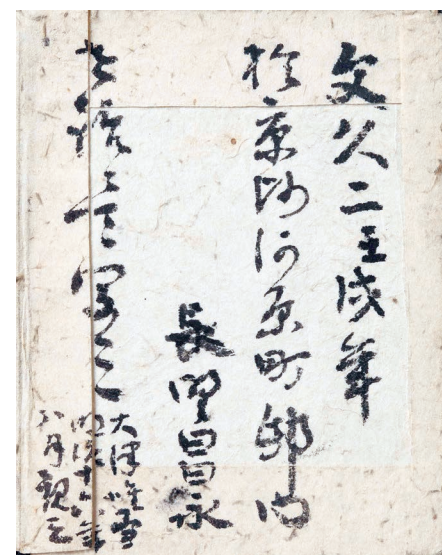


幕末維新の人物と写真②

「ほっとやまはく」

タイム³⁰



包紙の墨書

県立山口博物館が所蔵する幕末維新の人物の写真シリーズで紹介しています。今回は、山口県に残る、撮影年の明らかでない写真（ガラス湿板）です。

161年前の幕末写真

左が周布政之助、右は長州藩医長野昌英です。長州藩の京都屋敷で撮影されたものです。周布はあぐらをかいて左膝を立て、左手に番傘を差し、右手に徳利（とくり）を持っています。2人ともレンズを向かず、それぞれがポーズを取っています。

写真の包紙に「文久二年戊午、於京師河原町邸内、長野昌英（英）世話にて写之、大津唯雪、明治十六年八月観之」と記



周布政之助写真 1862（文久2）年、亀谷徳次郎撮影（推定）アンプロタイプ 11・9×9・1㍎、個人蔵（県立山口博物館寄託）

されています。このことから、撮影年・場所・人物が分かり、日本で写真が盛んに撮られ始めた時期のものとして貴重であり、かつ山口県に残る写真で最も古いものとなっています。

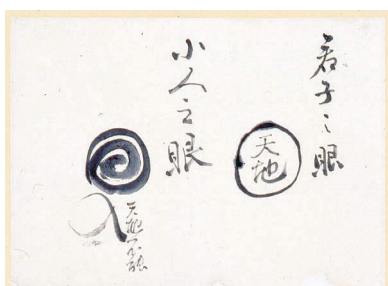
周布政之助（1823〜64年）は長州藩大組士。名は兼翼（かねすけ）、字は公輔、観山と号しました。後に麻田公輔と改名しています。村田清風の薫陶を受けて藩政改革に取り組み、保守派と政争を繰り広げた後に実権を握りました。松陰や高杉ほか門下生の良き理解者で、伊藤博文たちの密航留学（長州ファイブ）にも尽力しました。激動の時局に対応する中、1863（文久3）年8月18日の政変、64（元治元）年の禁門の変（蛤御門の変）、第1次長州出兵と相次ぐ情勢悪化によって追い込まれ、仮住まいの山口・吉富家で自刃しました。包紙の筆者・大津唯雪は、村田清風の次男です。

周布とお酒のエピソード

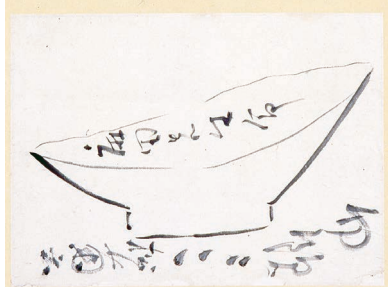
周布はお酒をこよなく愛したようです。大河ドラマ「花燃ゆ」でも、政之助がお酒を飲んでるシーンがたくさん出てきましたね。当館には、周布が愛用した萩焼河豚型徳利があります。ガラス写真で周布が手に持っているものとは少し形状が違いますが、周布が大好



萩焼河豚型徳利



木戸孝允戯画



きなお酒を飲む姿が想像できます。一方、周布は酒癖が悪く、それが元で多くの舌禍事件を起こしています。写真の戯画は、木戸孝允桂小五郎が、酒が過ぎる年上の周布を氣遣って描いたものです。君子の眼は天地がはつきり

しているのに対して、小人の眼はぐるぐる回って「天地不能」とし、杯の酒を周布の命に見立てて、「飲む勿（なか）れ、飲む勿れ」と記しています。「麻田」は周布の変名、「松菊」は木戸の雅号です。この戯画はとくりとともに、周布家伝来の館蔵品です。周布のお酒好きは止まらなかったようですが、木戸の気持ちも分かっていたので、この戯画を捨てずにおいたのでしょう。2人の交流がしのばれる一品です。

山田稔（学芸課主任）

▽次回は25日です。

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで

